



2018年7月12日

## 博報堂生活総合研究所

「家族30年変化」調査結果を発表 第三弾「家族・夫婦の価値観」編

# 夫は誠実に、妻はドライになった30年

「夫の不倫は絶対に許されることではない」と答えた夫 1988年 61.4%→2018年 84.3%  
「夫婦はどんなことがあっても離婚しない方が良い」と答えた妻 1988年 59.7%→2018年 24.4% など

博報堂生活総合研究所は1988年から10年毎に、サラリーマン世帯の夫婦を対象にアンケート調査「家族調査」を行ってきました(1988年・1998年・2008年・2018年の4時点で実施)。30年間におよぶ時系列分析であることに加え、同一世帯の夫と妻それぞれに同じ質問を投げかけ、反応のギャップをみるという特徴をもった調査です。

6月11日の第一弾、7月2日の第二弾に引き続き、今回の発表では第三弾「家族・夫婦の価値観」編として、結婚や家族、夫婦のあり方などに関する価値観の変化に焦点を当て、ポイントとなった調査結果を中心に伝えたいと思います。

なお、本調査は博報堂生活総合研究所で進めている研究「家族30年変化」の一環です。本調査を含む各種研究の成果については、サマーセミナー2018「家族30年変化」として、研究発表イベントやレポートなどで発表してまいります。

【調査概要】 調査地域：首都40km圏 調査対象：妻の年齢が20～59歳の夫婦が同居する世帯 630世帯(夫630人・妻630人 合計1,260人)  
調査手法：訪問留置自記入法 調査時期：2018年2月7日～3月12日  
※1988年・1998年・2008年を含む、調査概要の詳細はP.6参照

## 「家族30年変化」調査結果のポイント

### 夫婦の倫理観

夫は過去30年で最も誠実・妻思いに？

- 「夫の不倫は絶対に許されることではない」との質問に「はい」と答えた夫は過去最高(1988年61.4%→2018年84.3%)、妻のスコア(1988年73.2%→2018年78.3%)をはじめて上回る。
- 「結婚指輪をいつもしている」夫は過去最高(1988年15.8%→2018年40.3%)、「無断外泊したことがある」夫は過去最低に(1998年29.3%→2018年14.8%)。

### 結婚観・出産観

離婚の許容度は上がり、「結婚・出産＝一人前」の意識は過去最低に

- 「夫婦はどんなことがあっても離婚しない方が良い」との回答は、夫・妻とも過去最低。特に妻で大きく減少(妻 1988年59.7%→2018年24.4%など)。
- 「人は結婚してはじめて一人前」との意識は、夫・妻ともに過去最低に(夫 1988年47.7%→2018年27.8%など)。
- 「人は子どもをもってはじめて一人前」との意識も、夫・妻ともに過去最低に(夫 1988年53.3%→2018年30.2%など)。

### 家族観

家族の結びつきへの意識は高まるも、先祖の墓にはこだわらず？

- 「意識して家族の絆を強めることをする方が良い」との回答は、夫・妻とも過去最高に(夫 1988年37.3%→2018年57.8%など)。
- 「家族は『先祖代々の墓』に入る方が良い」との回答は夫41.4%・妻28.6%で過去最低に。

### 男女観

意識の上ではジェンダーフリーが進むも、実践は難しいとの回答

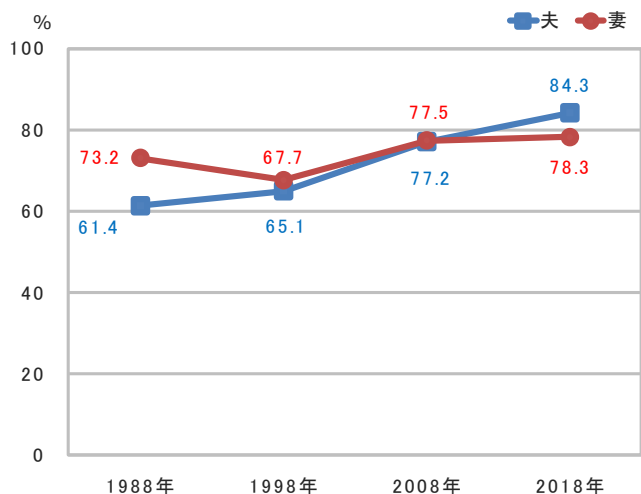
- 「女性は子供ができて外で働いた方が良い」との回答は、夫・妻ともはじめて過半数に達し過去最高に(夫 1988年31.6%→2018年52.7%など)。
- 「『女は仕事、男は家庭』という夫婦があってもよい」との回答は夫73.8%・妻82.1%にのぼるも、「自分たちがそうなくてもよい」との回答は夫31.4%・妻21.3%に留まる。

- 「夫の不倫は絶対に許されることではない」との質問に「はい」と答えた夫は過去最高(1988年61.4%→2018年84.3%)、妻のスコア(1988年73.2%→2018年78.3%)をはじめて上回る。
- 「結婚指輪をいつもしている」夫は過去最高(1988年15.8%→2018年40.3%)、「無断外泊したことがある」夫は過去最低に(1998年29.3%→2018年14.8%)。

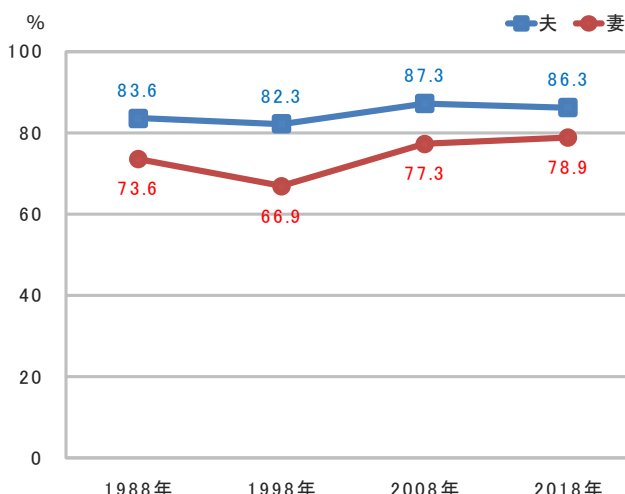
## ■ 夫婦にまつわる倫理観

**Q** 以下の項目についてあなたの考え・行動にあてはまる場合は「はい」、あてはまらない場合は「いいえ」でお答えください。(はい/いいえ) ※夫の回答(630人) 妻の回答(630人)

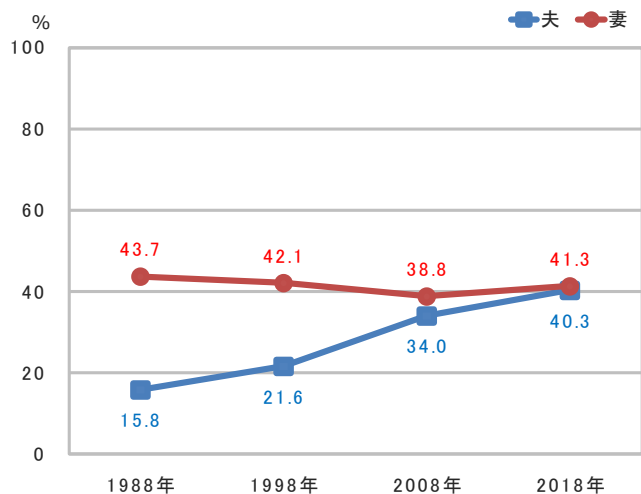
夫の不倫は絶対に許されることではない



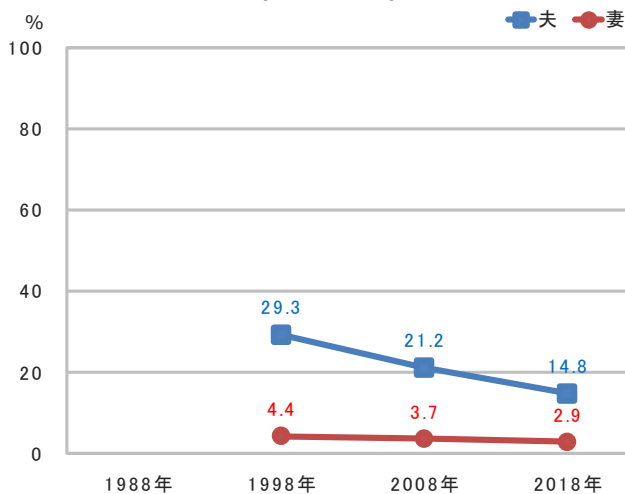
妻の不倫は絶対に許されることではない



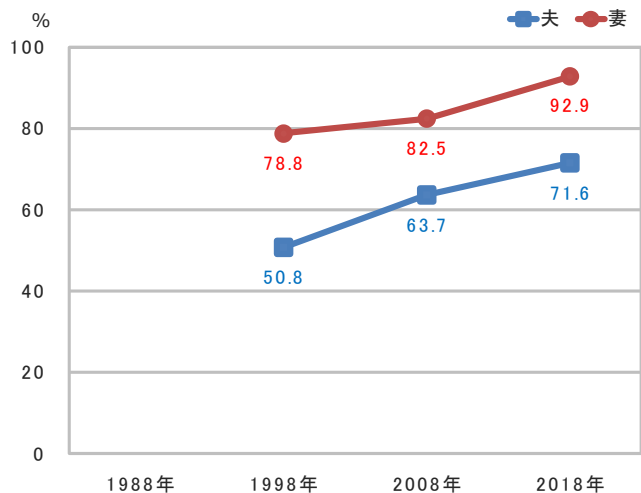
結婚指輪をいつもしている



無断外泊したことがある(1998年～)



帰宅が遅くなったら、必ず家に連絡する(1998年～)

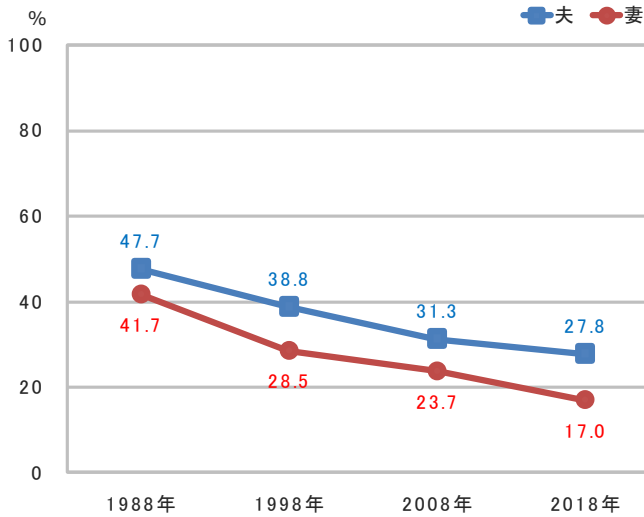


- 「夫婦はどんなことがあっても離婚しない方が良い」との回答は、夫・妻とも過去最低。特に妻で大きく減少（妻 1988年59.7%→2018年24.4%など）。
- 「人は結婚してはじめて一人前」との意識は、夫・妻ともに過去最低に（夫 1988年47.7%→2018年27.8%など）。
- 「人は子どもをもってはじめて一人前」との意識も、夫・妻ともに過去最低に（夫 1988年53.3%→2018年30.2%など）。

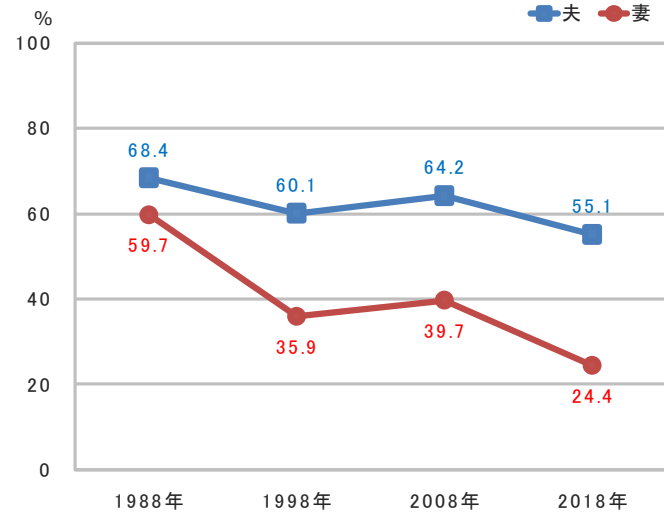
## ■ 結婚観・出産観

Q 以下の項目についてあなたの考えにあてはまる場合は「はい」、あてはまらない場合は「いいえ」でお答えください。  
（はい/いいえ） ※夫の回答(630人) 妻の回答(630人)

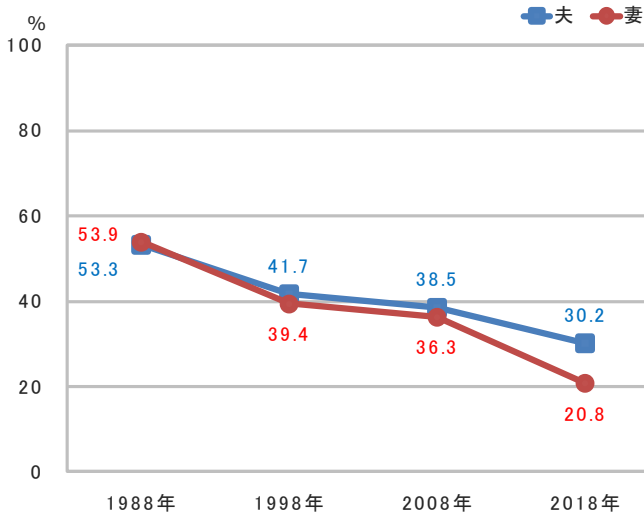
人は結婚してはじめて一人前だ



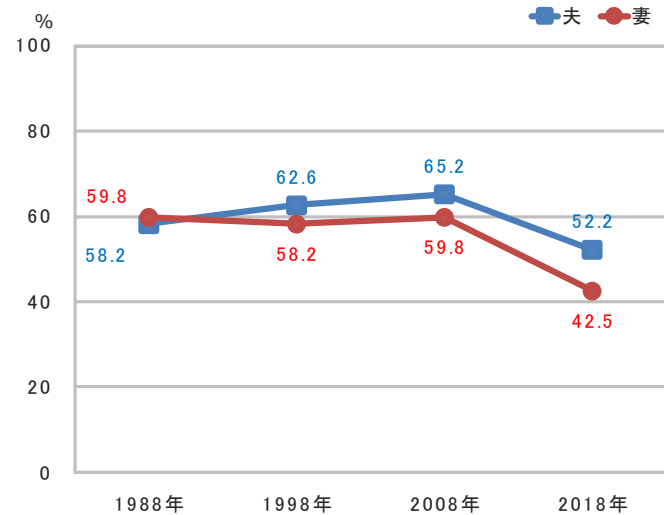
夫婦はどんなことがあっても離婚しない方が良い



人は子どもをもってはじめて一人前だ



子どもはできるだけ大勢いる方が良い

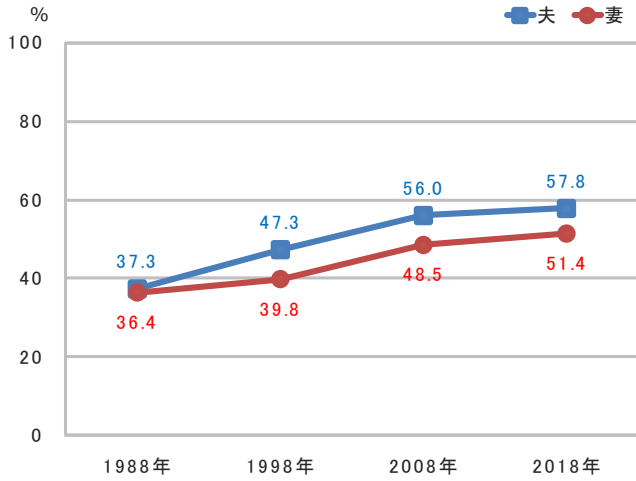


- 「意識して家族の絆を強めることをする方が良い」との回答は、夫・妻とも過去最高に（夫 1988年37.3%→2018年57.8%など）。
- 「家族は『先祖代々の墓』に入る方が良い」との回答は夫41.4%・妻28.6%で過去最低に。

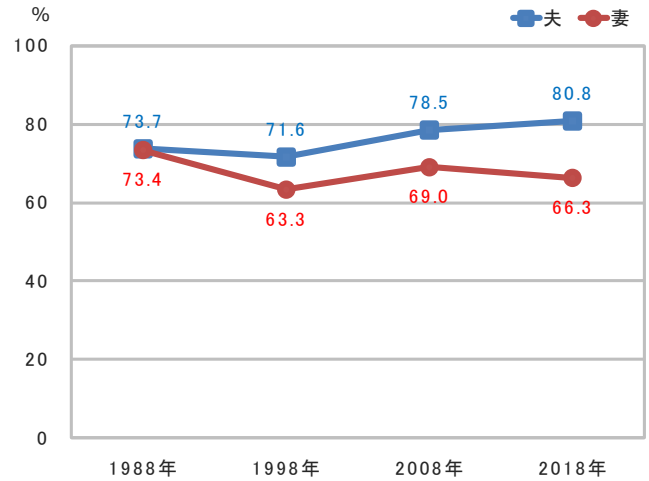
## ■ 家族観

以下の項目についてあなたの考えにあてはまる場合は「はい」、あてはまらない場合は「いいえ」でお答えください。  
 (はい/いいえ) ※夫の回答(630人) 妻の回答(630人)

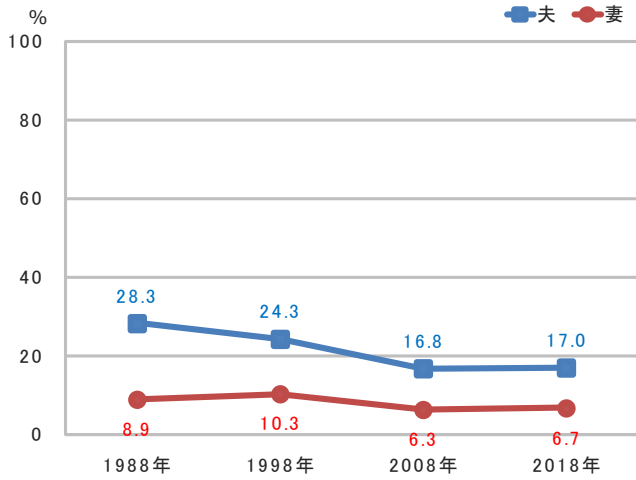
意識して家族の絆を強めるようなことをする方が良い



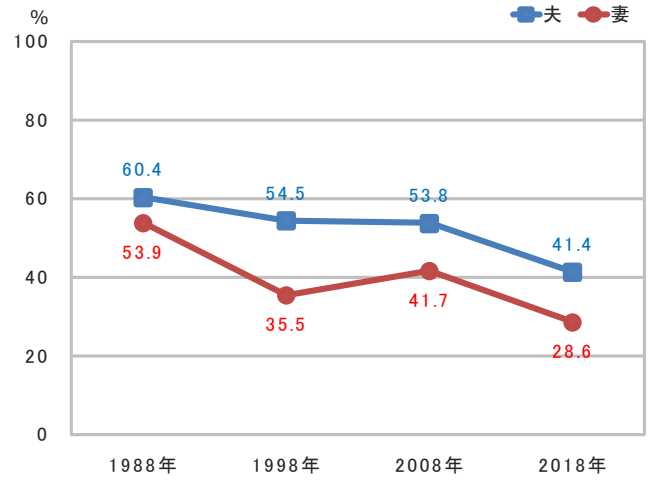
休日はできるだけ家族一緒に過ごす方が良い



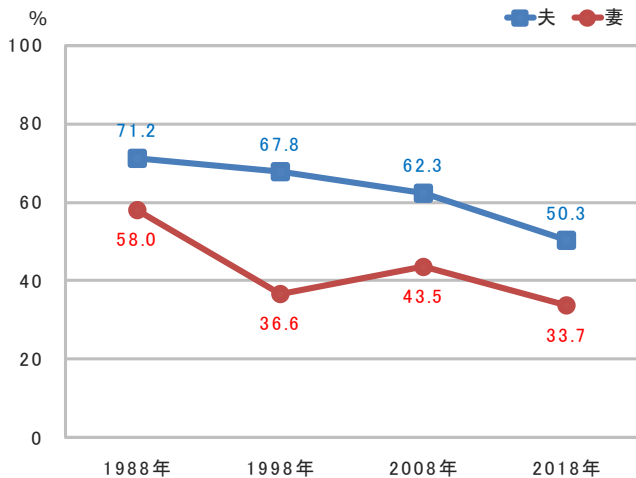
家族の都合よりも自分の都合を優先する方が良い



家族は「先祖代々の墓」に入る方が良い



妻は夫の家の墓に入る方が良い

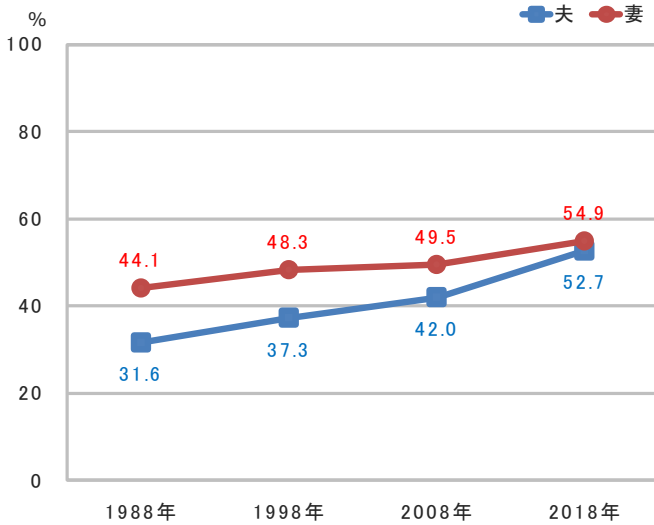


- 「女性は子供ができて外で働いた方が良い」との回答は、夫・妻ともにはじめて過半数に達し過去最高に（夫 1988年31.6%→2018年52.7%など）。
- 『女は仕事、男は家庭』という夫婦があってもよいとの回答は夫73.8%・妻82.1%にのぼるも、「自分たちがそうなくてもよい」との回答は夫31.4%・妻21.3%に留まる。

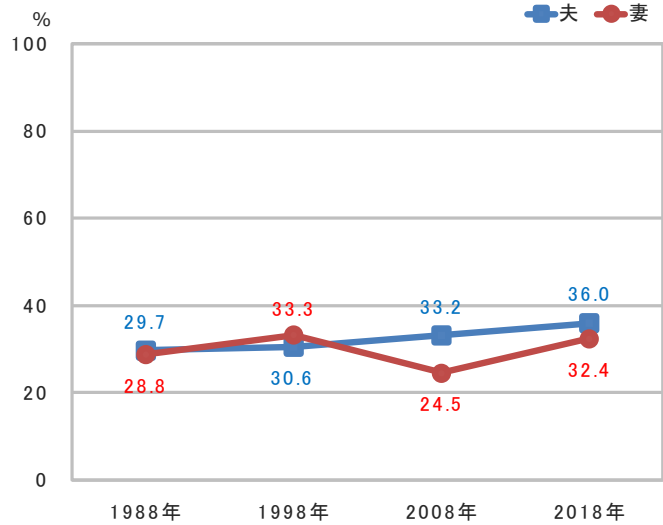
## 男女観

Q 以下の項目についてあなたの考えにあてはまる場合は「はい」、あてはまらない場合は「いいえ」でお答えください。  
（はい/いいえ） ※夫の回答(630人) 妻の回答(630人)

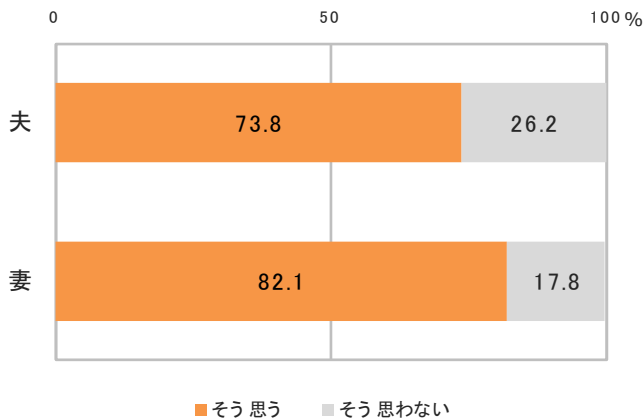
女性は子供ができて外で働いた方が良い



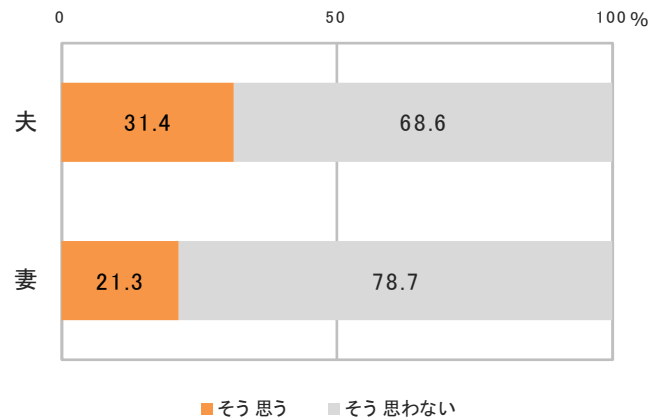
夫は家庭と仕事では、家庭を優先する方が良い



「男は仕事、女は家庭」ではなく、「女は仕事、男は家庭」という夫婦があってもよいと思う(2018年のみ調査)



自分たちが「女は仕事、男は家庭」という夫婦になってもよいと思う(2018年のみ調査)



## 「家族調査」調査概要

- 調査地域：首都40km圏
- 調査対象：妻の年齢が20～59歳の夫婦が同居する世帯  
対象条件：①②の両方に該当する世帯  
①夫がサラリーマンであること ②夫と妻が同居していること(子供の有無は問わない)
- 調査世帯数：630世帯(2018年：夫630人・妻630人 合計1,260人)

	妻20～29歳	妻30～39歳	妻40～49歳	妻50～59歳	合計
2018年	41	184	238	167	630
2008年	57	208	173	162	600
1998年	146	323	422	309	1,200
1988年	149	446	366	223	1,185

※1988年の合計には、妻の年齢が不明な1世帯を含む

- 調査手法：訪問留置自記入法  
※調査票は2種類  
・妻票…家族や家庭について妻のみが記入する「世帯票」と、夫婦それぞれが記入する「個人票」の2部構成  
・夫票…夫婦それぞれが記入する「個人票」のみ
- 調査時期：2018年2月 7日～3月12日  
2008年6月12日～7月 7日  
1998年1月 8日～2月 2日  
1988年8月 3日～8月22日
- 企画分析：博報堂生活総合研究所
- 実施集計：株式会社東京サーベイ・リサーチ